

前年度の改善方策について実行した改善結果

令和7年度に向けた改善方策として、学校の教育目標や重点目標、学校が大切にしていることが伝わっていないことがわかりましたので、改善する方向を出しました。

これまでは、学校の重点目標として、

- 1 子ども一人一人が、安心して自分のよさを発揮し、笑顔と元気にあふれる、意欲的、創造的に活動する学校
- 2 保護者・地域社会と相互理解、連携を図り、学校の役割をよりよく果たして、その信託にこたえる開かれた学校
- 3 芸術や伝統・文化に学ぶ教育活動を大切にし、情操や感性を豊かに育てる学校

という言葉を使っていました。令和7年度は、以下のようにシンプルにして学校が大切にしていることを伝えました。

1 教育目標 について

まず、教育目標です。尾山台小学校の教育目標は、

- ・すすんで学ぶ子
- ・あかるい心をもつ子
- ・じょうぶな体をつくる子
- ・なかよく力をあわせる子

です。多くの学校は、知・徳・体の3つになっています。尾山台小学校は、知「すすんで学ぶ」徳「あかるい心をもつ」体「じょうぶな体をつくる」の3つに加え、「なかよく力をあわせる」という言葉が使われています。徳にあたる言葉が2つある、と言えるでしょう。これについては折に触れ、お伝えしています。尾山台小学校ができた当時、尾山台小学区に暮らす児童は、玉川小学校と八幡小学校に通っていました。玉川小学校と八幡小学校に通う子が、なかよく力をあわせることを願った当時の人々の思いが教育目標の言葉になっています。これは校章や校歌にも表れています。校章は、八つの勾玉がひもで結ばれています。勾玉が玉川小学校を、八つあることが八幡小学校を表しています。校歌の2番の最初は、「力をあわせ」で始まります。

教育目標について、学校評価アンケートからは、教員の意識は100%近い高いものがありますが、児童の肯定的評価は9割に達せず(88%)、保護者の肯定的評価は8割に達していません(77%)。こちらについては、次年度も高い意識をもった指導に加え、児童、保護者の実感につながる指導を実践していく必要があります。私もことあるごとに、教育目標の言葉を伝えていくようにします。

2 キャリア教育

尾山台小学校はキャリア教育を大切にしています。キャリア教育は、一人一人の社会的自立・職業的自立を目指した教育です。キャリア教育として学校で学習することは、短い言葉でまとめると、「キャリア・パスポートの作成と、地域と連携した体験活動の中で「基礎的・汎用的能力」を育てること」と言えますが、わかりにくい表現になっています。

基礎的・汎用的能力とは、①人間関係形成・社会形成能力 ②自己理解・自己管理能力 ③課題対応能力 ④キャリアプランニング能力と定義されています。この4つの力を、尾山台小学校では、①つながる力 ②見つめる力 ③たかめる力 ④ゆめにむかう力 という言葉で再定義し、子どもたちに伝えています。今年度は、1年生でのキャリア・パスポートの作成と、地域と連携した体験活動の見直しについて取り組みました。学校公開において、学年ごとにキャリア教育発表会として公開しています。また、6年生が実施する「リアル職業調べ」につながる活動として、地域と連携した体験活動の見直しを全学年で進めました。

これについて、保護者対象のアンケート項目にはしていませんでしたが、教員、教職員、児童へのアンケート項目から、教職員も児童も意識が高いことがうかがえます。今年度までは、ほめて伸ばす指導、認めて伸ばす指導に力を入れていました。今年度も継続していきますが、今年度は、そもそも勤労の根本には「ありがとう」という言葉あるということからスタート地点とし、自分の好きや自分の特性、経験から生まれた行動が、他の人を喜び、楽しみとなり、「ありがとう」という言葉が生まれ、自分自身の幸福にもなる、といった経験を学校で体験的に取り組むことができるようにしていきます。地域の中で行う体験活動の中で、この活動はどんな「ありがとう」を生み出しているのか、そして、これは発達段階（学年）に応じてですが、その「ありがとう」に金銭が発生して仕事になっている、ことや、金銭が発生しなくても、人生を彩る貴重な居場所になっていることを学ぶ時間にしていければと考えています。

次年度は、子どもたち、保護者の方々に、学校が大切にしていることがさらに伝わるように伝えていきます。